



坂田池公園内のテニスコートは全天候性6面

中学校敷地が84人と続いています。

横芝地区は3つの意見

地域と選んだ場所の関係では、大総地区の方の56・96パーセントの方が「坂田池周辺」を選んでいきます。一方、上界地区では、ほぼ同率の、56・22パーセントの方が「ほかの場所」への建設を望んでいて、その内訳は、横芝小学校南側が123人、昭和キヤボット跡地65人となっています。

横芝地区は、ほぼ3つに分かれた結果となり、一番多かったのは「ほかの場所」へという意見で、横芝小学校南側が283人、昭和キヤボット跡地60人、現在の中学校敷地57人など、計478人となっています。これに続き、給食センター北側437人、坂田池周辺433人となっています。

場所ごとの共通点

今回のアンケートで、回答者が選んだ場所ごとの共通点を紹介します。

建設予定地であった「給食センター北側」を選んだ方の多くは、①早期建設、

早期完成を望まれていること。②航空機の航路直下は、大きな障害ではないこと、などが理由となっています。

坂田池周辺を選んだ方の意見としては、①航路直下は避けるべき、との意見に加え、②公園に隣接するスポーツ施設を有効に活用すべきである、という意見が多く寄せられました。

横芝小学校南側を選んだ方々の意見をみると、①通学距離のバランスを考えた意見が非常に多く、町のほぼ中心である。②同じ航路直下であるなら、給食センター北側より高度が高く、障害が少ない。③小・中学校が近くになれば文教ゾーンにもなる、といった意見です。



坂田池公園陸上競技場は、400mトラックを配した近隣にはない本格的なもの

アンケートを実施するまでの経緯

横芝中学校は、昭和35年11月に統合中学校として建設され、以来43年が経ちました。そして、この間9、496人の生徒（平成14年度末現在）が卒業し、社会人として活躍しています。

校舎は鉄筋コンクリート造りですが、築30年を過ぎた頃から老朽化が目立ってきました。また、校庭も狭く、野球、陸上、テニスなどの部活動が交錯し、打撲などの事故が多く発生するなど、その対策が大きな課題となりました。

こうしたことを背景に、平成3年5月、中学校PTAから移転改築の要望が町に提出されました。

町では、平成4年から6年にかけて、周辺中学校の現況調査や議会議員による先進地の視察、町幹部職員による検討会を行ったほか、校舎の強度調査を実施したところ、基準を下回る結果となったため、早急な改善が必要であることを確認し、校舎の移転改築を決めました。

その後、議会議員や教育関係者などにより、候補地の選定についての検討が重ねられ、平成10年11月、現在の中学校に最も近く、隣接して県道のバイパス計画があり、開通により通学に支障のない「給食センター北側」を建設候補地とし、地権者説明会を開催して理解を求めてきました。

地権者との交渉の結果、平成14年12月、地権者全員から同意が得られ、中学校建設地として決定しましたが、その後、航空機の航路直下（平成14年4月18日成田空港平行滑走路供用開始）であり、安全性に疑問があるとの意見が急浮上したため、